国際助産師連盟

戦略計画 2021 年～2023 年

International Confederation of Midwives
Strategic Plan 2021-2023

International Confederation of Midwives
Strengthening Midwifery Globally

国際助産師連盟

戦略計画 2021 年～2023 年

全世界の助産師協会とその会員助産師の支援に特化した唯一の団体として、独特かつ極めて重要な役割を担う ICM。助産専門職に対する知識・リソース・支援の提供においては、その指導力が高く評価されています。

目次

略語・頭字語一覧 3
I. エグゼクティブサマリー 4
II. はじめに 9
III. 戦略的優先事項 10

略語・頭字語一覧

International Confederation of Midwives（国際助産師連盟）	ICM
Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender, Queer and Intersex（レスビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クィア、インターセクシュアル）	LGBTQI
Member Associations（会員協会）	MAs
Member Association Capacity Assessment Tool（加盟団体能力評価ツール）	MACAT
Sexual and Reproductive Health and Rights（性と生殖に関する健康と権利）	SRHR
Sexual, Reproductive, Maternal, Newborn, Child and Adolescent Health（性と生殖・妊産婦・新生児・子ども・思春期の健康）	SRMNCAH
State of the World's Midwifery（世界助産白書）	SoWMy
Strengthening Midwifery Services（助産サービスの強化）	SMS
Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）	SDGs
Young Midwife Leaders（若手助産リーダー）	YMLs
Universal Health Coverage（ユニバーサルヘルスカバレッジ）	UHC
United Nations Population Fund（国連人口基金）	UNFPA
White Ribbon Alliance（ホワイトリボンアライアンス）	WRA
World Health Organization（世界保健機関）	WHO

I. エグゼクティブサマリー

性と生殖・妊産婦・新生児・子ども・思春期の健康（SRMNCAH）、ジェンダー平等、質の高い女性医療・地域医療の平等利用などの課題に貢献することにより、ICM は、これまでも、これからも、助産の価値を通じて様々なパートナーの視野の拡大に寄与していきます。

全世界の助産師協会とその会員助産師の支援に特化した唯一の団体として、独特かつ極めて重要な役割を担う ICM は、助産専門職に対する知識・リソース・支援の提供においては、その指導力が高く評価されています。また、性と生殖・妊産婦・新生児・子ども・思春期の保健（SRMNCAH）、ジェンダー平等、質の高い女性医療・地域医療の平等利用などの課題に貢献することにより、ICM は、これまでも、これからも、助産の価値を通じて様々なパートナーの視野の拡大に寄与していきます。

この役割を担う ICM には、助産分野にとどまらず、人々を集め、繋ぎ、変化を促す者として働く責任が生じます。新しい分野にも広がる会員協会と助産師、助産以外の協力機関、政策決定者、従来とは異なる分野のパートナーなどの利益を代表するとともに、助産師に対する認知と支援を拡大していかなければなりません。そして、この役割を突き詰めていく中で、これまで何が ICM にとって有益だったか、変化する世界の健康と開発の状況においてどのような転換や適応が必要か、さらに、ICM が次の 3 年間の戦略計画（2021 年 1 月～2023 年 12 月）でどのような分野に注力すべきかを精査する必要がありました。

ICM 戦略計画 2021 年～2023 年の策定は、ちょうど ICM が「助産専門職の枠組み（Professional Framework for Midwifery）」の評価・改訂を行っていた時期と重なり、また、連盟の運営能力（例：ガバナンス、マネジメント、人的資源、予算編成等）の評価を目的に、連盟内部で「加盟団体能力評価ツール（MACAT）」[1]の試験運用を行っていた時期でもありました。策定の過程で、2020 年の「助産師の年（Year of the Midwife）」や、2021 年から新たなパートナーと共に展開する「助産師の 10 年（Decade of the Midwife）」キャンペーン計画との調整も行われました。この戦略計画を策定していく中で、ICM の影響力強化と対象範囲の拡大につながる包括的なアプローチを通じて、進むべき方向性を検証し明確にすることができました。

完成した 3 ヵ年計画（2021 年～2023 年）では、これまでの主要分野での成果や教訓を踏まえながら、ICM 独自の付加価値や状況から生まれるチャンスを活かし、連盟内部および主要な外部パートナーや寄付提供団体からの意見も反映させています。この戦略計画の中で、ICM は、世界の助産師協会や助産師にとってのパートナーとして、擁護者として、専門アドバイザーとして、また知識基盤として位置づけられています。これにより、ジェンダー平等、人権、多様性、ユニバーサルヘルスカバレッジといった課題に対する影響力の幅を広げながら、かつ助産専門職に及ぼす影響力を最大化できるきめ細やかな形で、ICM が成長・拡大していけると期待されます。2021 年～2023 年の戦略的優先事項を以下にまとめました。

[1] MACAT は、もともと加盟団体の組織としての能力評価を目的に開発されたものですが、2020 年に ICM 本部が利用できるように適合されました。

ICM 戦略的優先事項 2021 年～2023 年

全体目標：助産の専門職を世界的に創出し、指導し、影響を与え、実践を可能にするエキスパートとしての ICM の地位を確立します。

戦略的優先事項その 1：助産の未来に向けた革新と持続可能性の道のり

- 人的・社会的・経済的・環境的な要素を取り入れた、持続可能な ICM を確保する
- 助産師や助産師協会と繋がり支えるため、デジタルツール・モバイルツールや知識管理リソースを活用・推進する（助産師の専門能力開発の様々な段階や、多国籍な環境において・デジタルアクセス・言語を考慮する）
- 新しく、かつ改善された方法で、会員のニーズを常に把握し対応できる機敏な ICM を実現する
- 年長世代の知恵と知識を活用し、世代間の学びあいを促進しながら、次世代の助産師を育成・構築する

戦略的優先事項その 2：**新しい助産専門職**を担う**枠組み**の発展・強化

- 明確な理念とケアアプローチを有する自律的な専門職としての助産を推進する
- 助産師が実践しやすい環境を整備する
- 助産に関する教育、規制、協会、リーダーシップ、ケアモデルを強化する
- 助産専門職に関する研究活動、エビデンス、必須コンピテンシーを総合的に推進する

戦略的優先事項その 3：女性の意見を重視した助産のパートナーシップ、アドボカシー、コミュニケーションを実現・強化することによる**助産に関するムーブメント**の醸成

- アドボカシーとコミュニケーションを活用し、助産師の影響力とニーズに関して、政策決定者やより広い対象者を指導し影響力を行使する
- 他者との有効かつ公平な関係を活かして、助産専門職の構築と支援を行い、ICM の影響力を拡大する
    - 個人・コミュニティ・世界の各レベルで、女性と助産師のパートナーシップを構築する（女性の権利とエンパワーメント、女性中心、敬意に満ちたケア、ジェンダー平等）
    - 助産師同士のパートナーシップを支援する（会員協会への支援、メンターシップ、強力な地域支援、姉妹団体の提携）
    - 助産師とステークホルダー（世界および国内の政策決定者を含む）、他の医療専門職（産科医、小児科医、看護師）、伝統的な介助者、他の保健医療従事者・団体、分野を越えたパートナー（SRHR、Women's Rights、UHC など）との間のパートナーシップを強化する

分野横断的事項：戦略計画のあらゆる側面において、ジェンダーの視点を反映させ優先させることにより、**ジェンダー平等**を推進する

戦略的優先事項その 1：助産の未来に向けた革新と持続可能性の推進

ICM の価値基準

- 私たちは、助産師と助産師協会の能力の強化・構築により、助産師による女性への支援を充実させ、質の高い SRMNCAH ケアを提供します。
- 私たちは、加盟する助産師協会と国内・地域・世界で協力し、これら協会が代表する助産師のために尽力します。
- 私たちは、助産専門職の発展のため、他者とのパートナーシップのもとで活動します。
- 私たちは、人権にもとづくアプローチをとります。
- 私たちは、正義、公平性、多様性、包含性を推進し、優先します。
- 私たちは、決定の根拠として情報とエビデンスを活用します。
- 私たちは、誠実さと説明責任を持った、責任ある運営を行います。

II.　はじめに

現行の戦略計画が 2020 年に最終年を迎え、ICM はその組織としての歴史において重要な岐路に立つことになりました。健全な戦略計画を持つことは、優先事項の推進や視野の拡大に寄与するだけでなく、「*すべての出産適齢期の女性が自身と新生児のための助産師のケアにアクセスできる世界*」という ICM ビジョンの達成の強力なツールでもあるからです。これまで会員協会と助産師の支援に立脚した豊かな歴史を持つ ICM は、その中核をなすミッションに忠実でありつつ、6 つの地域の会員協会を助産師の支援と、各パートナーとの協力や効果的なプロジェクト・プログラム（例：「5 万人のハッピーバースデー」プロジェクト、「若手助産リーダー」プロジェクト、「助産サービスの強化」プロジェクト等）を実施してきました。

そこで、今回の戦略計画では、過去に実施されてきた素晴らしい活動や 2017 年～2020 年の戦略計画を基に、ICM ミッションのより効果的な実行をめざすとともに、現実的かつ野心的な未来像を描いています。ICM の将来を見越した戦略は、現在の強みや成功事例を踏まえた躍進の機会を提供するのに加え、助産専門職の未来像について、また、母親と新生児の支援、ひいては家族・男性・コミュニティの支援に助産師が果たす重要な役割に関しても、先取的かつ画期的な戦略になっています。なお、ICM はケアの対象およびパートナーシップの対象として「女性」を強調していますが、同時に、それ以外の人々（例：思春期の少女、LGBTQI とノンバイナリーの人々等）にも助産師がケアを提供していることを認知し、重要視しています。また、助産師と会員協会がケアの対象とする人々が様々な状況や国家において持つ、様々なジェンダーアイデンティティを認知・尊重します。そして、すべての ICM パートナーのジェンダーアイデンティティと、代名詞の使用に関する意向を尊重します。

ICM の「権利章典（Bill of Rights）」や「助産ケアの理念とモデル（Philosophy and Model of Midwifery Car）」などの主要文書で明らかにされているとおり、ICM は、助産師と女性に奉仕するというコミットメントに根ざし、助産をすべての女性の基本的人権として高く掲げています。多様性の認識とその価値に対する取り組み、人種差別・性差別・年齢差別などの制度的偏見の検証、そして、あらゆる形の不平等への対処を通じて、ICM は正義・公平性・多様性・包含性をすべての活動において具現化・優先化する努力をします。これには、リーダーシップの多様化や ICM の様々な対象地域への注目のほか、ICM のスタッフ・プログラム・会員協会の内部での公平性と包含性を推進する取り組みも含まれます。さらに ICM は、すべての女性とコミュニティに対する公平で敬意ある文化的に適切な助産ケアを妨げる問題に対処することにより、正義を推し進め、人種差別に反対する努力を惜しみません（ICM の「人種差別に反対する声明（Anti-Racism Statement）」をご覧ください）。このような取り組みにより、民族・人種・出自・宗教・性的指向・性的アイデンティティを問わず、助産師・女性・コミュニティに関するアウトカムの向上と持続可能な発展が推進されると考えます。こうした考え方は ICM の戦略アプローチの根幹にあたるものです。その他の様々な ICM 所信声明の中でも、連盟の信念と原則が強調されています。

今回の戦略計画は、グローバル ヘルス ビジョンの助言を受けて、ICM 理事会の主導で策定されました。めざしたのは(1) 主要な ICM のステークホルダー（ICM 理事会、スタッフ、会員協会、若手助産リーダー、および、スウェーデン国際開発協力庁（Sida）、世界保健機関（WHO）、ホワイトリボンアライアンス（WRA）、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団（BMGF）、国連人口基金（UNFPA）、レールダル グローバル ヘルス（LGH）、末日聖徒教会慈善基金（LDSC）などのパートナー）が持つ多様な視点を反映させること、(2) ICM の視野を拡大し、その中にある ICM の付加価値を明確化すること、(3) 先見性と現実性を兼ね備えた戦略の骨格を支える優先事項を明示することです。

III.　戦略的優先事項

次の 3 年間にわたる戦略計画の全体目標は、助産の専門職を世界的に創出し、指導し、影響を与え、実践を可能にするエキスパートとして、ICM の地位を確立することです。この全体目標の達成のために、ICM にとって 2021 年から 2023 年の主要な戦略的優先事項となる 3 つの分野を掲げました。

1. 助産の未来に向けた革新と持続可能性の推進
2. 新しい助産専門職の枠組みの開発・強化と、その運用の支援
3. 女性の意見を重視した助産のパートナーシップやアドボカシー、コミュニケーションを実現・強化することによる、助産に関するムーブメントの醸成

この 3 つの優先事項は、それぞれ ICM の発展の重要な関心領域を網羅していますが、全体として、より力強く持続可能な影響力を持った ICM への道を開くことをめざしています。また、3 つの戦略的優先事項すべてを横断する形で、ICM 内部と助産専門職全体とにおけるジェンダー平等の醸成・推進の公約を掲げています。

戦略的優先事項その 1：助産の未来に向けた革新と持続可能性の推進[2]

世界の保健医療への取り組みは、急速に変化しつつあります。たとえば、ユニバーサルヘルスカバレッジや保健医療制度の強化に対する包括的な視野を得ること、あらゆる保健医療問題の進展の要となるジェンダー平等の重要性に対する認識を深めること、意思決定やリソースを低中所得国に顕著に移行させていることも、その変化の例です。また、COVID-19 パンデミックは、各国の保健医療制度や経済の安定を揺るがすのみならず、個人の暮らしにも広範な影響をもたらしており、今後もそれが続くと考えられます。このような常に変化する動的な状況においては、革新性と柔軟性の両方を備えることが、ICMの長期的な持続可能性の確保に繋がります。この「優先事項その1」は、会員協会と助産師にとって人を集め、繋ぎ、変化を促す者としての ICM の継続的な役割を、国内・地域・世界において確立する柱であり、また、ICM が次世代の助産師への影響力を高め、支援を充実させる力にもなるものです。

具体的な目標

- 人的・社会的・経済的・環境的な側面を含め、持続可能な ICM を確保する
- 助産師や助産師協会と繋がり支えるため、デジタルツール・モバイルツールや知識管理リソースを活用・推進する（助産師の専門能力開発の様々な段階や、多様な国内事情・デジタルアクセス・言語を考慮する）
- 新しく、そして改善された方法で、会員のニーズを常に把握し対応できる機敏な ICM を実現する
- 年長世代の知恵と知識を活用し、世代間の学びあいを促進しながら、次世代の助産師を育成・構築する

ICM のアプローチ

持続可能な ICM の確立は、以下に続く 2 つの戦略的優先事項の達成のためにも不可欠です。したがって、ICM 自体の成長とバランスをとりながら、会員協会・助産師・ICM 理事会・ICM スタッフへの十分な支援と能力開発の機会を確保します。まず、戦略的優先事項を効果的に実行できるよう、ICM の将来の持続可能性を見すえた ICM スタッフ・理事会のスキルの開発・練達や、ICM のガバナンスと内部構造の強化があります（人的持続可能性）。また、より幅広い助産コミュニティが ICM の変革と支援に積極的な役割を果たし、その逆もまた可能にするためには、ICM の成長と助産専門職の発展は相互依存関係にあるという理解が非常に重要です。そこで ICM は、会員サーベイやプログラム評価を通じて会員協会と助産師からのフィードバックを活用し、そのニーズに寄り添いながら、助産師とコミュニティの福祉を支援する方針や活動を推進していきます（社会的持続可能性）。さらに ICM は、この戦略計画期間中およびその後の財務面の安全性の確保をめざします。そのために、財源の多様化と、ICM 中核戦略行動により長期の財源確保に努めます（経済的持続可能性）。最後に、ひとつの組織として、対内的・対外的な活動において環境に責任を持つことは、自然界の健全性に極めて重要であり、与えられた環境の中で活躍する次世代の助産師のためにも必要です（環境的持続可能性）。ICM は、不要な出張や印刷資料を制限することや、スタッフ・会員協会・パートナーに不可欠な会議を優先すること、可能な場合には、持

[2] ICM「助産師の定義」と「助産の定義」をご参照ください。

続可能な形で生産された製品・サービスを選択することにより、この環境的持続可能性に率先して取り組みます。また、会員協会のそれぞれの状況における環境的持続可能性の効果的な実現方法について、会員協会の意識を高める努力をします。

次に、革新と学習の推進のため、また組織としての敏捷性の維持のため、特に、最近の COVID-19 関連と移動制限も踏まえ、ICM は研究と会員協会・助産師の支援のためのデジタルプラットフォームを評価し更新します。具体的には、使いやすさを高めた最新のウェブサイトや、情報共有に効果的なバーチャルプラットフォーム（例：Moodle）に優先して取り組み、会員協会や助産分野の人々と最新のエビデンスやツールを共有すること、また、新しい技術（例：通信やインターネットが未整備といった環境に左右されず伝達可能なモバイル対応のアプリ、動画、グラフィック等）を開発すること、多様な地域・パートナーに浸透できるよう翻訳を利用しやすくし、翻訳資料を強化することがあります。

ICM は、助産専門職が確実に発展を続け、世界中の女性と新生児のニーズに応え続けられるように、次世代の助産師の支援・養成・構築に努力します。具体的には、「若手助産リーダー」プロジェクトの強化・拡大のほか、メンターシップやリーダーシップについて会員協会と助産師を支援するツールやガイダンスの開発、年長世代の助産師の知識活用などがあります。

戦略的優先事項その 2：新しい助産専門職の枠組みの策定・強化と、その運用の支援

ICM の重要な活動のひとつである、「助産専門職の枠組み」。これは、助産従事者の質の向上に注目して、各国の助産サービスの開発・強化を支援するために ICM とパートナーが開発したツールで、助産専門職のための情報・指針ツールとして広く認知され、活用されています。ICM の活動のあらゆる側面を裏付ける、ケアに対する明確な理念とアプローチが示されたこの「枠組み」は、助産師やステークホルダーが世界の助産師の包括的支援に必要な重要課題を実行・主張する力になります。また、安全で効果的な助産実践を目的として、助産専門職の実践の基準、コア・コンピテンシー、ケアモデルも示されています。ただし、この「枠組み」は、新しいエビデンスや研究が生成されるとともに、また世界の状況が推移するとともに、変化していくべきものでもあります。

助産師と結びつき助産師を支える組織として、ICM は、助産師の知識と経験を反映させて、強固かつ最新の「専門職の枠組み」を開発するべき立場にあります。最新の「枠組み」を通じ、助産師が自律して実践できる環境を支援・開発する必要性を明確にするとともに、助産専門職が有意かつ革新的で先取的であり続けられるよう、ジェンダー平等や正義・公平性・多様性・包含性原則、人権にもとづくケアへのアプローチ、リーダーシップを推進していきます。

戦略的優先事項その 2：新しい助産専門職の枠組みの策定・強化と、その運用の支援

具体的な目標

- 明確な理念とケアアプローチを有する自律的な専門職としての助産を推進する
- 助産師が実践しやすい環境を整備する
- 助産に関する教育、規制、協会、リーダーシップ、ケアモデルを強化する
- 助産の専門性に関する研究、エビデンス、必須コンピテンシーを総合的に推進する

ICM のアプローチ

助産師が効果的に教育を受け実践し、助産専門職全体も発展し続けていくには、「専門職の枠組み」を常に再評価し、助産師のニーズの包括的な視点が反映されるよう改訂していく必要があります。ICM はこれを行う唯一の存在として、助産師が助産専門職を主導し実践を向上させるのに必要な 2 つの要素、「ジェンダー平等」と「実践しやすい環境」を検証し、その統合を図ります。

現行の「専門職の枠組み」は、ICM の「助産実践に必須のコンピテンシー」に基づき、研究推進と教育・規制・協会の支援を主眼としています。今回の改訂後の枠組みは、現行の枠組みの要素を踏まえたうえで、中核となる理念を拡大し、リーダーシップや助産の理念、実践しやすい環境、助産師主導のケア実践モデルの継続性も取り入れたものになる予定です。この改訂された枠組みを通じて、ICM は、助産専門職が看護職など他の医療職とは異なった自律した専門職であるという認知の重要性について、意識向上に優先的に取り組みます。

新しい「専門職の枠組み」の改訂と運用には、優れた研究・エビデンスの活用と、助産師を含む世界の主要ステークホルダーとの協議が欠かせません。ICM は、エビデンスにもとづく研究が発展の持続に不可欠であることを踏まえ、助産師主導の研究を支援します。また、すべての会員協会と助産師が、研究結果を容易に入手して利用できるようにします。この「枠組み」を様々な地域で推進・共有し、助産専門職の支援と発展に欠かせない主要な要素について、助産師その他のステークホルダーと協調していきます。そして、政府・開発パートナー・市民社会の協力者らに対するアドボカシーのツールとしても「枠組み」を利用し、助産師の意思決定の議論への参加や、あらゆる場面での「枠組み」の実施を促します。

戦略的優先事項その 3：女性の意見を重視した助産のパートナーシップ、アドボカシー、コミュニケーションを実現・強化することによる**助産のムーブメント**の醸成

助産専門職の認知・支援・発展において他者と協調して取り込んでいくことは、ICM のミッションの核心です。助産のムーブメントの創出により、世界中の会員協会・助産師・主要なステークホルダーの力も活用して、助産師支援のネットワークの構築や、新しい分野での賛同者の獲得、助産専門職の持続性とその世界的認知の強化、さらには、国内・世界レベルで実践しやすい環境の創出に必要な政策や資金の確保が可能になると期待されます。

女性の権利のムーブメントの核心にある諸問題の多くが、助産師にも影響する問題であると ICM は捉えています。助産師は日々のケアの中で、女性の権利を擁護する努力をしています。ICM は、これからも助産師と女性の側に立ち、助産師の影響力を拡大しジェンダー平等をけん引する両者の関係を支援し続けます。

具体的な目標

- アドボカシーとコミュニケーションを活用し、助産師の影響力とニーズに関して、政策決定者やより広い対象者を指導し影響力を行使する
- 他者との有効かつ公平な関係を活かして、助産専門職の構築と支援を行い、ICMの影響力を拡大する
    - 個人・コミュニティ・世界の各レベルで、女性と助産師のパートナーシップを構築する（女性の権利とエンパワーメント、女性中心、敬意に満ちたケア、ジェンダー平等）
    - 助産師同士のパートナーシップを支援する（会員協会への支援、メンターシップ、強力な地域支援、姉妹団体の提携）
    - 助産師とステークホルダー（世界および国内の政策決定者を含む）、他の医療専門職（産科医、小児科医、看護師）、伝統的な介助者、他の保健医療従事者・団体、分野を越えたパートナー（SRHR、Women's Rights、UHC など）との間のパートナーシップを強化する

ICM のアプローチ

ICM は、アドボカシーとコミュニケーションのための人員と予算の拡大に注力します。助産師が女性・新生児・コミュニティの健康とより良い状態になるために果たす重要な役割について、認識と政策転換を生み出す強い影響力を持ったムーブメントを構築するためには、強固なアドボカシーとコミュニケーションが必要だからです。その戦略において特に注目するのは、先見性のある的確な目標を確立すること、ICM とその協力者に賛同する団結・統一された声を作り出すこと、そして、連盟・会員協会・助産師が必要な変革を進め、反対意見があれば対抗できる体制を整備することです。また、他の戦略的優先事項のすべてを支える多面的な戦術として、アドボカシーとコミュニケーションの重視は、パートナーシップや資金源を活用・多様化するのにも役立ちます。これにより共同行動が加速し、助産師の重要性について情報を提供する機会が広がると期待されます。

パートナーシップを構築する取り組みの中で、ICM・会員協会と共通の目標にむけて共に前進できる重要な市民団体や女性団体を、各地域および世界全体で見出す努力をします。ICM はまた、会員協会と助産師が、メンターシッププログラムを通じて、地域内および地域間で相互に支援しあえる新しい機会を創出していきます。さらに、政策転換や助産専門職への予算拡大を求める努力も含め、新しい分野の志を同じくするステークホルダーとも協力し、助産のムーブメントを前進させていきます。

戦略的優先事項その 3：女性の意見を重視した助産のパートナーシップやアドボカシー、コミュニケーションを実現・強化することによる、**助産のムーブメントの醸成**

分野横断的事項：この戦略計画のあらゆる側面において、**ジェンダーの視点**を反映させ優先させることにより、ジェンダー平等を推進する

ジェンダー平等は、ICM が今回策定した戦略計画の 3 つの優先事項のあらゆる側面に影響を与えます。蔓延する様々な不平等が助産専門職にどう影響するかを理解することが、これらの問題に対処する基礎として重要です。そこで、3 つの戦略的優先事項とそれぞれの具体的な目標において、ジェンダーの視点を活用すること（例：業務の諸要素とそれが女性とジェンダー平等に与える影響を検証すること等）により、ICM は、ジェンダーの平等を推進し、様々な地域の助産師とそのケア対象である女性の現状が改善されるよう、プロセスやアプローチの実行に努めます。

謝辞

ICM は、戦略計画 2021 年～2023 年の策定における理事会のリーダーシップと指導に対し謝意を表します。また、ICM スタッフ、会員協会、若手助産リーダーの皆さん、スウェーデン国際開発協力庁（Sida）、世界保健機関（WHO）、ホワイトリボンアライアンス（WRA）、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団（BMGF）、国連人口基金（UNFPA）、レールダル グローバル ヘルス（LGH）、末日聖徒教会慈善基金（LDSC）、その他のパートナー団体から戦略計画策定プロセス全体を通じていただいた重要な情報・ご意見に対し感謝いたします。最後になりましたが、ICM は戦略策定において、グローバル ヘルス ビジョン（GHV）からいただいた確固たるご指導とご支援にも感謝申し上げます。

2021 年 公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本助産師会、一般社団法人日本助産学会 訳

ICM発行文書の原文については、ICMが著作権を有します。
日本のICM会員協会である日本看護協会・日本助産師会・日本助産学会は、ICMの許諾を得て日本語に翻訳しました。
日本語訳の著作権については、原文作成者であるICMと日本看護協会・日本助産師会・日本助産学会に帰属します。
原文の転載引用については、ICMに連絡し使用許諾を得てください。
日本語訳の転載引用については、日本助産師会http://www.midwife.or.jp/に連絡し使用許諾を得てください。